

私たちは天命を待たない 何が何でもリニアは家族を路頭に 今すぐ 経済情勢に対応した決断を

◇ 9

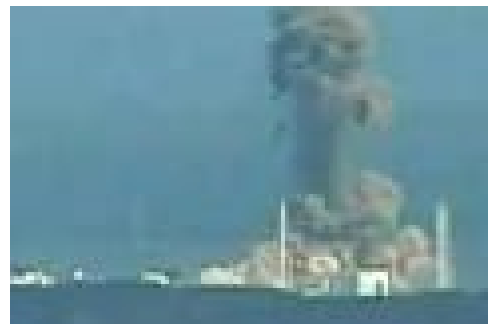
2012. 1. 25

JR東海労東二運分会

超電導リニアによる中央新幹線計画で、弱気に見える現状と課題が「JR東海」と「おれんじ」1月号に載りましたが、読みましたか？ みなさん。

去年は、日本経済の血液循環とも言うべき電力の安定供給を瞬時も途切らせてはならない、としてこれまで通り原子力を利用し続ける以外に日本の活路はない、と言い切ったはずなのに、しかし1月号では、今後、日本、世界の政治や経済が、世紀に一度の大転換期を迎えようとしているなかで、開業までの全期間にわたり、順調に進めていくことは容易ではありません。仮に逆境になれば、工事のペースを落とし、経営の基盤である東海道新幹線を守り続けることが最優先となります。決して諦めることなく前に向かって努力し続けることが大切です。と、微妙な表現をしています。

そして、人事を尽くして天命を待つそうです。人事を尽くすとは、自らの信じることを実行するためにあらゆる努力を惜しまないこと、だそうです。しかし「自ら」とは誰のことを指しているのでしょうか。リニア計画に不安を持って



いるお客様や社員と家族がいることを知らない訳がないと思いますが、今までは品川開業も270Km/h 運転もうまくいった。俺の「信じること」に黙って従え、という絶対命令でしかないと思いませんか？

しかも、天命、とは何かの説明がありませんが、どうも、人間の力ではどうにも出来ないことのようにです。ずいぶん無責任だと思いませんか？

超電導リニア中央新幹線の往く先は失礼ですが、八ッ場ダムの中止、迷走を思わせませう。経済の現状を考えてリニア計画中止の決断をすべきです。何が何でもリニアでは、社員と家族を路頭に迷わせることとなる、天命、を拒否しましょう。

「ここに来て 弱気の虫に 鳴かせたか」 CD 頑爺